

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	局所進行および境界切除可能膵臓癌患者における至適術前治療戦略および化学放射線療法の治療的意義
	研究対象者	2013 年 1 月から 2022 年 12 月までに当施設で膵切除術を受けた切除可能境界および切除不能局所進行膵癌の患者様のうち包括同意を頂いている方。
	研究目的	多剤併用化学療法レジメンは膵臓癌（PC）患者の生存率を改善してきた。一方で局所進行膵癌に対する術前治療期間、手術タイミングなど、至適治療方法はまだ定まっていない。我々は、境界切除可能膵臓癌（BRPC）および局所進行膵臓癌（LAPC）治療における最適な治療戦略の探索と術前治療における放射線療法の意義を明らかにすることを目的として検討を行う。
	研究方法	臨床データを用いて予後因子について検討する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 5 年 1 0 月 2 7 日 ～ 西 暦 2 0 2 6 年 1 2 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[×]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[×] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X] 年齢、[] 生年月日、[X] 性別、[X] 既往歴、[X] 併存疾患、[X] 外来日・入院日・退院日、[X] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[] ゲノムデータ、[] 看護記録、[] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 消化器外科肝胆膵 村川正明
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		消化器外科（肝胆膵） 村川 正明 045(520)2222 利用停止のお申し出は 2026 年 3 月 31 日までお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります